



文化学園長野中・高が加盟する「ユネスコスクール」の ユネスコってなんでしょ？

そこが
知りたい！

ユネスコは正式名称を「United Nations Education, Science and Culture Organization (UNESCO)」といい、日本語では「国際連合教育科学文化機関（こくさいれんごうきょういっかがくぶんかきかん）」と訳されます。世界193の国が加盟する国連の中の一つの専門機関です。2017年4月、文化学園長野中・高が「ユネスコスクール」の指定を受けてから、5年が過ぎました。2022年度新入生のみなさんとともに、もう一度ユネスコについて学びなおしてみましょう。

ユネスコのはじまり

世界屈指の研究機関を目指して…

ユネスコの前身は1922年に国際連盟の下に設立された国際知的協力委員会とされており、ドイツの物理学者**アインシュタイン**やフランスの物理学者**キュリー夫人**など、著名な有識者12人が出席しました。その当時国際連盟の事務局次長を務めていたのが、「武士道」などの著書でも有名な日本人の**新渡戸稲造**でした。

国際知的協力機関は、世界屈指の研究機関としてパリで研究所を開設し、戦争の心理的原因の研究、文化財の保護などを手がけていました。しかし、第二次世界大戦の開戦により、その活動は中断されます。

研究を、世界平和に生かす

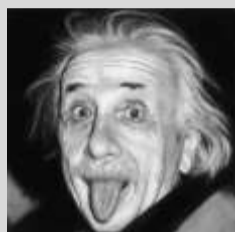
戦時中の1942年、ヨーロッパ各国の文部大臣はイギリス外務省の呼びかけで、連合教育大臣会議を開き、ヨーロッパの教育復興を目指します。やがて、**教育、文化の国際協力で世界平和を築こう**という方向に進んでいきました。第2次世界大戦終結後の1945年11月1日、イギリスとフランスの政府は、ユネスコ設立のための会議を再びロンドンに招集しました。各国代表はこの年の8月に**広島・長崎に核兵器が使われた悲劇を想起し、科学が平和のために生かされなければならないことを決意し**、新しく生まれようとしている機関で、教育と文化に加えて科学も扱うことを決めました。こうして同年11月16日、「悲惨な戦争を2度と起こしてはならない」という理念のもと、**ユネスコ憲章**が採択されました。

翌1946年11月4日、20カ国がユネスコ憲章を批准した時点で憲章は効力を発し、ユネスコが誕生しました。

(参考：公財 ユネスコ協会連盟web, <https://www.unesco.or.jp/>)



インターネットで調べてみよう！
何をした人だろう？



アインシュタイン



キュリー夫人



新渡戸稲造

「ユネスコ憲章」とユネスコの使命

ユネスコの目指すところを示した「ユネスコ憲章」。一番最初の「前文」の部分にまず、「世界の平和」を唱えています。**あらゆる文化を尊重しながら、教育や科学を通じて人々を「平和を追求する人」に育てようとするのが、ユネスコの使命**です。以下に前文を全て掲載するので、ぜひ一度は読んでみましょう！

この憲章の当事国政府は、この国民に代わって次のとおり宣言する。
戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の十分で平和な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに研究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

(引用：三田ユネスコ協会web, <https://www.unesco.or.jp/sanda/kensho/>)

ユネスコスクールとは…

ユネスコの理想を実現するための学校です

ユネスコスクールは、1953年、ASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、**国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体**として発足しました。世界182か国で11,500校以上がASPnetに加盟して活動しています。日本国内では、2019年11月現在、1,120校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を、ユネスコスクールと呼んでいます。

また、ユネスコスクールはその活動の質を担保するため「ユネスコスクールガイドライン」を策定しています。そこには、国内外のユネスコスクールの交流を盛んにし、**相手の良さを認め合い、学び合うことや、学校全体で組織的・継続的に活動すること、地域との連携(つながり)など開かれたネットワークを築くこと**などが明示されています。

ユネスコスクールに加盟すると…

【その1】世界的な学校間ネットワークの一員となります！

ユネスコスクール間の交流のほか、学生や教員を対象とした国際会議や共同プロジェクトに参加することができます。こうしたネットワークを活用した活動は、グローバル人材の育成に繋がります。

【その2】地球規模の諸問題について思考する「持続可能な開発のための教育(ESD, 右図)」推進拠点として、人・モノ・情報が得られ、教育手法の変革と児童生徒の変容に繋がります！

ユネスコスクール事務局やユネスコスクール支援大学間ネットワークから、情報・指導助言、教材などが得られます。学習方法や学習スタイルなど、先生方の教育手法獲得や生徒の変容にもつながることが期待されます。

ユネスコスクールでの学び

2020年度から、新しい学習指導要領が段階的に導入されました。ここには、持続可能な社会の構築の観点が入り込み、教育基本法とこの新しい学習指導要領に基づいた教育を実施する一つの手段に「持続可能な開発のための教育(ESD)」が大切だと考えられています。

ESDは「Education for Sustainable Development」の頭文字で、ユネスコの目指す教育の在り方を指しています。下の図に、ESDの目標、何を学ぶか、どのように学ぶかを整理しました。ユネスコスクールでは、ESDの実践校として、様々な学び方で力をつけていきます。



<参考・引用> 文部科学省 ユネスコスクール公式ウェブサイト, (<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>)
文部科学省 (2018) 『ユネスコスクールで目指す持続可能な開発のための教育』, 日本ユネスコ国内委員会

中学生徒会で、SDGsな活動に挑戦中!



中学生徒会三代のアイデア総結集! 4R廃油せっけんプロジェクト

★中学生徒会執行部(細井 美愛・田邊 隼太)

2年前の中学生徒会で、「海の豊かさを山の私たちが守る!」を目標に、マイクロプラスチック削減のための「新聞エコバッグプロジェクト」に始まった環境問題の4R活動(Reduce:減らす, Reuse:再利用, Recycle:再生, Refuse:断る)。今年度は、水質を悪化させる食用油や合成洗剤の問題に取り組んでいます。

スプーン1杯の食用油の浄化にバスタブ20杯分のきれいな水が必要なこと、洗剤の原料であるパーム油が熱帯雨林の破壊や児童労働などにつながっていることを知り、大豆や菜種が主原料である使用済みの食用油をご家庭から集め、廃油せっけんを制作。何度も失敗しながら、せっけんが固まるには「温度+



混ぜ方」にコツがあることを発見し、一度に沢山のせっけんを作れるようになりました。道具の油汚れに完成した廃油せっけんを試したところ、市販の洗剤よりも油がよく落ち、品質も問題なしでした!製造過程で洗剤を使わなくなったことも大きな収穫です。

せっけんの包装には、昨年度の生徒会執行部の交流で長野盲学校からいただいた点字新聞を使いました。厚く丈夫な点字新聞を使うことで、せっけんの型崩れや劣化を防ぐことができました。

文化祭では、廃油をご提供くださった皆様に、せっけんを配布。一般の方には1つ100円で販売しました。120個近くあったせっけんは、おかげさまで日曜のお昼過ぎには完売いたしました!

一方、新たな課題も見つかりました。

環境に配慮する目的の活動なのに、結局油汚れの洗浄を伴い水を汚すこと、大豆や菜種の生産効率がパーム油より悪いことなどに気が付いたのです。ものづくりの難しさを改めて感じました。

また、廃油せっけん和市販洗剤の環境負荷の違いには様々な見解があります。専門機関の力も借りて成分や水質の分析を行い、自信をもって勧められる製品にしたいです。

全校生徒が分担して活動に関わりながら、今後も地域イベント等で水質問題の啓発活動に取り組んでいきます。乞うご期待!!

STOP! 地球温暖化 暑さをふせゴーヤ!プロジェクト

★高校生徒会執行部(関口 小雪)

執行部企画として初めての「暑さをふせゴーヤプロジェクト」を行っています。猛暑の夏を低エネルギーで乗り越えるため、緑のカーテンを作るのが目的です。緑のカーテンは、つる植物を窓際に栽培して日陰を作り、窓から入る日光を和らげ、室内の温度上昇を抑える効果があります(-3℃程度)。

SDGs 7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」SDGs 13「気候変動に具体的な対策を」にアプローチ



するこの活動を全校生徒の協力で行いたいと思いたち、5月下旬から買い出しなど準備を始めました。6月には執行部でゴーヤ苗と朝顔の種を植えました。

クラスにも協力してもらい、新体育館のテラスと来賓昇降口のところに、ゴーヤのつるを這わせるためのネットも貼りました!



7月中旬、ゴーヤと朝顔は順調に成長中。現在は約1メートル、ゴーヤの実もいくつかでき始めました!毎日クラスの人と水やりをしている時に、ゴーヤと朝顔が少しずつ成長しているのを感じることができて、とても嬉しいです。ゴーヤはもう少しで収穫できそうです。みなさんもゴーヤの成長を見てみてください!

TOPICS

高1 SDGs2030カードゲーム

6月11日、昨年に引き続き、志賀高原ユネスコエコパーク環境学習ファシリテーターの講師5名をお迎えし、高1 学年全員でSDGs2030カードゲームを行いました。刻々と変わる世界の現状をふまえ、環境を保ちつつ満足感も失わないような持続可能な未来をつくるにはどうしたらよいか考えました。

SDGsはすべての国が真剣になれば、あっという間に達成できると思っていた。ゲームをしてみると、環境・経済・社会が両立するのは難しいことがわかり、国民一人一人が取り組む必要性が理解できた。

SDGsは政府が力を入れていることで、自分たちは関係ないと思っていたけど、目標を達成するために自分ができることがたくさんあるんだなと思いました。こんなに楽しくSDGsが学べるものがあつたことに驚きました!

前半は自分の目標を達成するために動いていたが、後半は世界全体で不足していることを補うようにみんなが協力して行動するようになっていった。現実でも同じようなことが大事だと思う。私にできる小さなことでも協力していきたい。

一人では気づけなかったダメな点も、グループで話すことで見えてきて、さらに世界全体で一つになることで社会が改善していく様子が具体的によく見えた。チームワークって大事だなと思った。

すみれ祭前夜祭 探究学習 中間報告会を実施



高校2年生の探究学習の中間報告会が、4か月遅れて開催されました。学級・学年閉鎖を経て、リサーチ・クエスチョンの設定までを全員が経験し、次のステップに進みます。代表発表者の一人、茂木 洸樹さんに感想をうかがいました。

テーマ:「野球離れとその課題」

2年4組 茂木 洸樹 さん



探究学習を始めてからもう一年。あっという間でした。高校一年生の時は、自分から率先してやる感じではありませんでしたが、今、何かが変わったのを感じています。

好きな野球について調べていくことは、とにかく楽しかった。調べていくうちに、野球界での「野球離れ」の進行が一番の問題だと考え、これを多くの人に知ってもらいたいと思いました。そして、伝え方を考えてみた時に、大事なことは自分も楽しみつつ、聞いている側の人にも楽しんでもらうのが一番いいのではと思いました。そこで、あえて原稿を用意せずに相手の反応を確かめながら発表をしました。反応が良かったので嬉しかったです。

私がこの一年で得たことは、興味のあることを深掘りし続ける楽しさと、この楽しさをいろんな人に伝えられる喜び。そして、達成感です。これからも、この姿勢を忘れず探究心を持ち続けていきたいです。

中3 現代版「元服」の儀式 SDGs 立志式

6月11日(土)、中学3年生が「立志式」を行いました。立志式とは、日本の武士社会において行われていた元服であり、ここを境に、髪型、衣服もそれにふさわしいものに替えて、大人の仲間入りをすることになります。現代版立志式は、戦後、日本児童文学作家協会会長 浜田広介の提唱で始まりました。

本校の立志式の特徴は、生徒たち一人一人が「立志の言葉」を英語でスピーチする点にあります。今年度の「立志の言葉」のテーマは、「SDGsが達成される未来への決意」。社会科(公民)でSDGsを深く学び、家庭科(保健)で自分史を作成、英語科との教科横断的な学習で、式典に臨みました。



式典の最後には、生徒から保護者へ感謝の言葉を綴った手紙(日本語)と、保護者からわが子への思いを込めた手紙が交換され、涙を流す感動の一幕で式典を終えました。

国際交流→異世代間交流 社会が学び舎! シニア世代に活動報告

7月2日(土)、長野市教育委員会主催「令和4年度青少年健全育成情報交換会」にて、次世代を担う子ども代表として、中3 松田眺希さん・藤澤美咲さん、中2 甘利 蝶さんの3名が、昨年度行ったEnglish Camp企画『ブータンの学校とオンライン交流』の活動報告を行いました。

市教委の浅地広久さんからは「わらしべ長者に似たブータン民話『ヘレヘレじいさん』が、お金やモノによらない豊かさを教えてくれていることに気付いた皆さんは素晴らしい」とうれい感想をいただきました。また、参加者のおひとりから、使用済みの割箸を利用した昔ながらのおもちゃ、ガリガリトンボを教えてくださいました。松田眺希さんは「シニア世代との情報交換会は、とても新鮮。ガリガリトンボはSDGs 的発想だと感じた」と話しました。

世代を超えた「社会」という学び舎で学び合う意義を、改めて感じた一日となりました。



BGNユネスコユース あなたの隠れた活躍を教えてください! 学校外で面白いことをしている人、他校や社会人団体の人たちとSDGsに関わる活動をしている人など、本校の隠れた逸材を探しています!取材の上、本誌に掲載させていただきます。自薦・他薦は問いません。年中募集中ですので、これからの活動も大歓迎です!

★中学職員室 BGN編集担当(長田・榎本)まで教えに来てください!